

平成 28 年度 第 2 回北九州市子ども読書活動推進会議(要旨)

- 1 日 時 平成 28 年 7 月 14 日 (木) 13:30~15:00
- 2 場 所 中央図書館 2 階 第 3 会議室
- 3 出席者 [委員]
山元悦子委員 (会長) 他 12 名
[事務局]
古林節子企画調整課主幹他 10 名

4 議 題

- (1) 子ども図書館の整備について
- (2) 平成 27 年度の各施策の指標の検証
- (3) その他

5 主な質疑、意見

事務局/ただ今から「平成 28 年度第 2 回子ども読書活動推進会議」を開始する。

本日の「北九州市子ども読書活動推進会議」は、昨年 7 月 3 日に施行された「北九州市子ども読書活動推進条例」により設置された北九州市教育委員会の附属機関で、本日は第 2 回目の会議となる。

この会議は公開としており、会議の内容は前回同様に、後日ホームページに議事録を掲載したい。

本日の資料を確認する。

最初に次第、続いて委員名簿、市関係職員の出席者名簿、配席表。配布資料のは資料 1 の (1) 子ども図書館整備の「プラン整理表」、(2) 「既存平面図」(3) 「ゾーニング図」、(4) 「児童文学の顕彰について」。資料 2 「新・北九州市子ども読書プランの施策実施状況」(平成 27 年度)、資料 3 「子ども読書会議」、資料 4 「旅する絵本カーニバル in 黒崎」。

本来ならここからは議事の進行に入るが、「子ども図書館のゾーニング案」について意見を伺うことになっているため、委員に改めて今一度、館内をご覧いただき、その後、意見を伺いたい。会長は同意してもらえるか。

会長/はい。

事務局/本日は開館日のため、現場での説明・質問は、後ほど受け付ける。

事務局が誘導し、館内閲覧。

事務局/ここからは議事の進行を会長にお願いします。

会長/傍聴人の有無を報告のこと。

事務局/傍聴人はいない。

議題 (1) 子ども図書館の整備について

会長/今施設を見て回ったが、図書館のゾーニングなど議事について、事務局からの説明をお願いします。

事務局/本日議題はその他も含め 3 件あるが、はじめに「子ども図書館の整備等について」配布資料 1 「プラン整理表」、「既存平面図」、「ゾーニング図」をご覧いただきたい。

「新・北九州市子ども読書プラン（29p、30p）」に示されている「子ども図書館の整備の基本的考え方」を基にし、これまでに委員から頂いた意見を踏まえ、図書館の配置計画である「ゾーニング案」を作成した。カラーの方がゾーニング案で、そうでない方が既存の施設である。

ゾーニング案の作成については、中央図書館を設計した磯崎新氏の事務所に依頼している。今後も計画策定の節目で委員の意見を伺い、可能な限り計画に反映させていきたいと考えている。

子ども図書館については、「勝山分館」と「視聴覚センター」及び「中央図書館」の一部を改修して整備を行うことになっている。今回の案では、整備可能面積である約2,200㎡を最大限子ども図書館として活用することを想定している。

プランの中で示されている、「子ども図書館」に求められている6つの機能について前回説明したが、それを配置すると、既存施設の改修という制約があるため、どうしても全ての部屋を利用することが必要という事になった。

「ゾーニング案」は地下1階に幼児閲覧室と事務室、閉架室、それから1階に小・中・高校生の閲覧室、2階には多目的室を配置している。

地下1階の幼児閲覧室はこれまでの勝山分館を利用している。幼児閲覧室というのは、どうしても乳幼児の声が出てしまうので、遮音対策としても小学生・中高生とは別のフロアが良いと考えている。また、地下1階に配置することで、すぐに勝山公園側に出られるという利便性もある。今後は狭くても庭でも本を読めるという様な多様な読書空間を作るための整備もしていきたい。

また、これまで課題となっていたが、地下1階から2階まで行けるエレベーターを設置している。図面では分かりにくいですがEVと書いてある。エレベーターをつける事により、ベビーカーや車椅子などがスムーズに館内を移動できるようになると考えている。

また閉架室には、少ない面積でも沢山の本が置けるように集密書架を採用することを考えている。荷重の関係から考えても、地下1階に置くのが望ましい。

次に1階。小学生・中学生・高校生の閲覧室とエントランスホール、それから後程詳細を説明するが、シビックプライドコーナーを加える予定である。

まずエントランスホールは、「子ども図書館」の正面入口を1階に配置し、図書館の顔となるべき「サイン」なども玄関に設置して、一目で「子ども図書館」があるということを示したいと考えている。最初の見学のときに係長が説明したが、あちらの方を玄関にする。

エントランスでは、ソファやテーブル・椅子などを置き、飲食可としてリフレッシュコーナーの機能を備えることを考えている。

次に、小学生・中学生・高校生の閲覧室について。現時点では、小学生と中・高校生は分けているが、この閲覧空間は壁を可能な限り取り除き、壁のないフレキシブルで開放的な空間にして、自由に行き来できるような作りをしたいと考えている。

特に、中学生・高校生の閲覧ゾーンについては吹き抜け空間にして、2階には階段でアクセスできるようにしている。2階には、中高生の閲覧室の他に調べものなどが出来る学習コーナーのようなものを配置する予定である。

また、本市ではシビックプライドの醸成を事業の一環としており、北九州市ゆかりの児童文学者を顕彰する施設を設置する事を考えている。今回「子ども図書

館」を整備するにあたり、館内に児童文学を顕彰するコーナーを設け、お互いに相互連携する事を検討している。

その場所としては、シビックプライドコーナーと書いている所、約 100 m²程の広さを考えている。

文学館や市民文化スポーツ局の運営ラインの方に内容を任せながら、有機的に連携していきたい。

最後に2階だが、ここはイベントやワークショップ等を行える多目的室を設置する予定である。200 m²以上の広さがあり、天井も高く、全体的にゆったりとした空間のため、イベントや会議内容によってはパーテーションなどで仕切って利用するという事も考えられ、より自由度の高いプログラムを提供できる空間になると考えている。

また、閲覧室と多目的室を分離することにより音の問題も解消されるので、ここで思い切ったワークショップも可能になると思っている。

ゾーニングについては以上。

今回意見を皆様からいただき、今後具体的な図書館レイアウトを作成していくことになる。全体的な考え方として、今回整備する「子ども図書館」においては、あまり蔵書数にとらわれず、子どもたちがゆったりとくつろげる、快適な読書空間を目指したい。開架冊数としては、最大でも約3万冊程度、閉架冊数を6万冊程度と想定している。

今後の書架レイアウト次第では、開架の冊数が減る可能性もあるが、基本的な考え方としては、閲覧室はゆったりとした読書空間の形成を優先して、読みたい本などがあれば、いつでも閉架書庫から本を取り出して、対応が出来るような図書館にしたい。

なお、外構の整備は、1階の視聴覚センター入口からのスロープの再整備などをして、駐輪場からの動線も確保するよう今後検討していきたい。

今回の「子ども図書館」の整備は既存の施設を利用して行うため改修内容に限界もあるが、委員の意見をお伺いし、可能な限り反映させていきたいと考えている。

会長／今、基本的なコンセプトである「快適な読書空間」を基にしたゾーニング案を説明してもらった。子ども図書館の6つの機能の基本的な考え方をもう一度確認したい。

事務局／前回配られたプランの29ページと30ページに載せている。機能として1つ目は子ども向けの専門図書館。2つ目はシビックプライドを醸成する図書館。3つ目は市立図書館による児童サービスの統括機能。それから4つ目が学校図書館の支援センター機能。5つ目が地域や家庭等での子どもの読書活動の支援。6つ目が関係機関との連携の推進。①子ども向け専門図書館の設置②シビックプライドの醸成をする図書館③市立図書館による児童サービスの統括機能④学校図書館支援センター機能⑤地域や家庭等での子ども読書活動の支援⑥関係機関との連携の推進となっている。

会長／ではその6つの機能などを念頭に置きながら、ゾーニング案について意見・質問があれば。

委員／エレベーターがついて良かった。蔵書3万冊と書いてあるが幼児・小学生・中高生の割合についてはどうか。

事務局／大まかに、幼児が1万、小学生が1万、中高生が1万という割合で考えている。

委員／図書館に勤めていたので気になるところがある。事務部門とボランティアさんがいる所が全く無い。図書館は閲覧室だけで成り立っているのではなく、本を毎日整理して開架をする作業が必ずある。本を搬入して整理をして出す為のスペースが必要だが、その部分が支援センター事務局の中に位置づけられているかが気になる。また、動線も考えてその作業スペースを必ず確保しなければならないのではないか。ボランティアさんたちが居る場所や、色々なパネルシアターや道具を置く場所がこの図面では見えないが。

事務局／まず事務室だが、支援センター事務局と書いてあるのが事務室で、200㎡ほどある。横に研修室、会議室もあるので、様々な形でここを事務室として使いたいと考えている。

それから作業をする場所、これはあくまでも案なので、まだ変えていかなければならない所が沢山あり、例えばその幼児閲覧室のカウンターが狭く、委員がおっしゃったような作業が出来にくいと考えられるので、まだまだ改善していきたいと思っている。

それからボランティアさんの件については、日々の活動も含めてどのような形で関わりを持って連携していったらいいかというのが課題であり、今後ボランティアの方の役割も含めて考えてみたいと思っている。

会長／確かに幼児閲覧室のカウンターと事務室は動線的に一体化した方が効率はいいのかと思う。

地下1階の研修室はボランティアさん達の待機室やパネルシアターの道具を置いたり、そういった機能も念頭に置いたものなのか。

事務局／基本的には研修用である。ただ、先ほど述べたように、多目的室が広いので、自主研修はここを使うことも考えられるし、常時イベントをしている訳ではないので、ここの部屋の使い方も考えていきたいと思っている。

会長／このメンバーの方たちもボランティアで色々活躍されてる方がいらっしゃると思うが、そういった方たちの控え室等に関して経験や意見があったらお願いしたい。

例えば私の経験では事務室とここで言う会議室に物を置ける場所があり、ちょっとしたテーブルがあって打ち合わせが出来るようになっていた。

事務局／それは可能。

会長／ではこの事に限らず、質問や意見があれば。

委員／中高生の閲覧室と小学生の閲覧室だが、こちらの機能としては学習支援のような構成というようなことを言われているが、そのようなことを考えているのかということと、小学生の閲覧室に関して言えばカウンターも無くて人が居ない感じを受けるが、その状況を考えているのか。中高生の閲覧室が一緒になっているが、中学生と高校生が同じ閲覧室の席に座れるだろうか。中学生は高校生がいると座り難いのではと思う。

事務局／今日提案しているのはあくまでもゾーニングなので、こういう形で配置するということを了解いただき、意見をいただいたら次はレイアウトに入る。レイアウトに入るときに、今のような疑問がどのように解消していくかということも見ていただきたい。人の問題だが、そういう事も含め、カウンターを具体的にどうするか、どう配置するかということについては、またレイアウトで示したい。

それから最初にいただいた意見の学習支援という事だが、基本的に考えているのは、閲覧のための部屋である。ただ子ども達からは、学習ができる部屋がほし

いという要望が高いので、調べ学習をしたり、みんなで勉強したりするときに、
どういうものがあり、どう配置したらより便利かということは念頭に置きながら
レイアウトしたいと考えている。

それから中学生と高校生の件だが、ここは高校生、ここは中学生、ここは小学
生とするよりは、自由に小学生であっても中学生の本を読んでもいいし、高校生
であっても小学生の本を読んでもいいし、フレキシブルにもっと自由に入れるよ
うな、そういう場所作りを考えている。高校生がいたら行きにくいというような
ことがもし出てきたら、そういうことがないように運営の方で注意したいと考え
ている。

会長／他に何かあればどうぞ。

委員／幼児閲覧室について、先ほどのパネルシアターなど、小さいお子さんに読み聞
かせをするスペースというのは、幼児閲覧室の中でどのように展開されるのか。

事務局／段をつけて靴を脱いで自由に上がるような場所は作る。それをどこに作るのが
良いかというのは今からレイアウトの中で判断するが、いわゆるお話コーナーは
作る。

会長／では他の所について何かあれば。

委員／図面の見方が分からないが、1階のシビックプライドコーナーの所と小学生閱
覧室の所に線が2本書いてある。そこは壁が取れないのか。

事務局／説明不足だったが、小学生閲覧室の近い方の壁までが100㎡である。今は手
前に壁がある。この壁が取れるかどうか加重の問題もあり、磯崎事務所の方に検
討してもらっている。もし取れないということであれば、少しでも開放的になる
ように工夫が必要だと思っている。

委員／小学生閲覧室と中高生閲覧室の間でエレベーターがあるところにも波線が引い
てある。ここにも壁があるのか。

事務局／今は壁。これは可能な限り取ろうと思っている。

会長／カーブの所に有るカウンターの壁と扇型の左にある線も壁か。

事務局／これはどの辺りまで出すかは分からないが、やはり壁が少しは要る。どの辺ま
で残すかというのは今後の事務所の設計次第だが、自由に行き来できるような形
の空間が生まれるように、可能な限り壁は減らしたいと思っている。

会長／2階のギャラリーについてももう少し説明願いたい。

事務局／ギャラリーは磯崎新事務所から提案があったものだが、1階からの吹き抜け空
間に位置し、そこからも望めるように本や図書資料などを展示できるスペースを
作りたいという提案。本などをアートの飾ったり展示したりするような多様な
読書空間を目指したいと事務所から聞いている。あまり幅は広くないので、そこ
で閲覧するという場所ではない。

会長／2階は書架のないレイアウトになってしまう。書架は無くて中高生閲覧室とい
うのは基本的に椅子と机があるというイメージか。

事務局／ここは学習室というか、勉強の出来るような部屋。ただ籠りきりになってもい
けないし、ここをどう使っていくかという事は未定。逆に意見があればお伺いし
ておきたい。

会長／意見があれば。

委員／レイアウト的なことになると思うが、中高生の閲覧室というのはかなりスペ
スがあって、もしここに椅子とかテーブルがあると、ほとんどが学習室になっ
てしまう可能性がある。出来ればせつかく図書館に来たので読書がきちっと出来る

ようなスペースは取っていただきたい。

会長／中身のレイアウトに係ってくる事と思うが、書架をどう並べるか、しっかり読める部分と個別のブースで学習することについては今後考えていくべきことである。

委員／幼児の閲覧室から考えていくとしても、一応どんな風に閲覧できるようにしたいと考えているのか、これが1点。子ども達はトイレにすぐに行くのでトイレについて、それと授乳室があるがおむつ換えのスペースはどう考えているのか。壁があって子どもがいる時に親御さんと行くのに細長く行くような感じを今のイメージでは受けるが、そういう時もう少しオープンな感じの方が良いのではないか。まだこれからだと思うがどのような感じか。

課長／今日は現場を見ていただいたが、今並べてあるたくさんの本を少し閉架の方にしまっ、もう少しゆったり感を出し、この円形になっている所にお話のコーナーを作りたいと思っている。そうすると尚更本が少し減るかもしれないが。それから、保護者が読み聞かせの間自分の本も探せるように、そうした保護者のお役に立つような本を置ければと思っている。トイレの話が出たが、授乳室も含めて子どもたちに合った、楽しい明るいトイレをどう確保し、レイアウトしていくかというのが課題になっている。ただ先程ボランティアの部屋の話も出ており、1階のスペースが限られているのでどこまで出来るか分からないが、可能な限り授乳室やトイレを使いやすくしたいと考えている。

委員／先程見学させていただいて本が多くて、本の中に埋もれてしまっているような感じなので、もう少しゆったりとした形で、幼児だったら特に表紙が見えるような本の置き方をした方が良くと思う。

会長／皆さんが色々行っている図書館の素敵な所を出し合って、出来る限りアイデアを広げていきたいと思っている。

委員／子ども図書館ということで大変期待が膨らんでいる。限られたスペースしかないで理想はあくまで理想だが。この幼児閲覧室にお話のスペースということだったが、本当に理想なお話スペースは靴を脱いで絨毯敷きということと、お話をしている所の空間を子ども達が何かほかの事に気をそらすことが無いように、出来たらそこを仕切って、ドアがつくような暗幕カーテンがあって、その中を調光できる仕組みがあることだ。お話がゆったり聞けるものが福岡市の図書館にはある。そういうのがある子ども図書館ができれば、そんなのがあったらという理想であり、このスペースでは難しいと思うが、出来るだけそれに近い形になるのが良い。あと小中高生が自分達で活動が出来る部屋があればと思っている。子ども達がお勧めの本のポップを書いたり、部活動的なスペースを作ってもらいたい。

委員／八幡図書館のオープニングに行った時にシビックプライドコーナーの様なものがあるが、みずかみかずよ氏の顕彰がしてあった。印象としては図書館が狭いというのもあると思うが、特にみずかみかずよ氏の顕彰については、戸畑図書館の宗左近コーナーに比べると狭いという印象を受けた。ここではきちんと顕彰できたらと思う。

会長／このシビックプライドコーナーについては今の所どのようなイメージか。補足する事があればお願いしたい。

事務局／配布している子ども図書館の児童文学顕彰コーナーの資料について説明する。北九州市の児童文学者の功績と様々な資料を出来るだけ分かり易く、小さいお子さん達にも知っていただいて、それを足がかりに中央図書館でもこういう方々の

本を手にとって読んでいただく、そうしたことを目的としたコーナーを検討中である。中身としては資料にあるように、本市ゆかりの児童文学者の紹介、そしてただ展示だけではなく、子どもたち方がもっと楽しく、目で見たり触ったりする中で何か楽しい本があるな、この絵本読んでみたいなと思ってもらえるような仕掛けを考えていきたい。名称やレイアウト、展示するものについては、今後色々調査して考えるので、またこの辺りに関して意見があれば提案してもらいたい。

会長／来た子ども達がアクティブに関われるような施設があったり、またその作者について調べたような過去の子どもの成果物が並べてあったりなど、多くの意味合いがあると思うが、双方向的なコーナー、関わりあえるようなコーナーであってほしいと期待している。

会長／他のところで構わないので、意見があればお願いしたい。

委員／2点あり、まず今後のこの会議のあり方を聞きたい。今こうやってハード面のことを見せてもらっているが、これからボランティアの方々はどう繋ぐか、様々な企画などがどのようにして具体化されていくのか等、ソフトと同時に考えてレイアウトを考えていくべきではないかという思いもある。逆にこのハードが決まってしまってから企画を考えようというのはおかしいと思う。今後会議の進め方はどのようにあるのか。それから2点目、レイアウトの件だが、先だって福岡の方の図書館まで行ってきた。大きな図書館だったが、凄いなと感じたのが2点あり、1つはここでいうと例えば図書館関係の方が多分、事務室におられるのではないかと思うが、福岡ではフロアごとの真ん中に職員の方がいて本当に見える。そして周りで閲覧みたいなのをしたりして、何かあったらすぐそこに行って聞いたり、逆に職員の方からも何か困っている時にすぐ見える。真ん中がカウンターになっていて、そこに皆さんがいらっしゃるとい感じだった。このレイアウトからすると、そういった職員の方は何処にいるかが見えない。もう一点は検索。小・中・高校生でもパソコンで検索するとパッと分かって凄かった。そして通路に東京の地下鉄のようにラインが引いてあって、下を見れば分かるような工夫がされていて、職員の方に聞かなくてもその場所にたどり着けた。それからコピーコーナーもあり、大変充実しているなど思った。そういった点はどうなっているか。

事務局／最初の1点目の質問の答えだが、基本的にどのような機能を持つかということとは6点申しあげた。その6点の機能とこの配置というのは表裏一点のもので、どちらも同時進行で行くべきものとは思っている。このゾーニングを見ていただくことで先ほどから質問が出ている様に、イベントや事業はここですというようなことを併せてお考えいただきたい。私どももゾーニングに合わせてソフト面についても連携しながら水面下では進めているが、同時に見せるということはまだ難しい状況である。まず皆さんが大まかな配置として足りないものはあるけれども、大体振り分けとしては、これで良いのではないのか、幼稚園と高校生を一緒にした方が良いとか、全然違う意見が無ければ、今頂いたご意見を基にまずレイアウトを考え、併せてソフト面も考えていきたいという風に思っている。人の配置も同じで、実際何人ぐらい雇えてどういう配置になるかというのは未定であり、予算の関係があり可能な限りフロアに居るように出来たらいいなと個人的に思っているが、出来ずとは答えられない。それから検索とか設備、それも本を買うことを優先しながら、可能な限り充実した、使いやすい良いものにしたいと思っはいる。今日は少し先行してハコモノの方に行っているが、委員のおっしゃ

った連携のことや機能のことも忘れてはいる訳ではないのでご了解いただければと思う。

委員／もうひとつ前回のときに話したが、児童資料の研究所というか、そういうものがあつた方が良いのではないか。中央の図書館として色々周りの地域の人達を指導するというか、そういった事を考えているのであれば、研究をする為の資料の収集の場所を、難しいと思うが入れてほしいのが一つと、シビックプライドコーナーが随分隅の方にあるなど気になっていて、一番奥にあるとあまり上手く活用されないのではないか。それよりは閲覧室の中にそういうコーナーを設けてみんなが通る所にある方が良いのではないか。

事務局／シビックプライドのコーナーだが、これは壁が取れるか取れないか大きい問題ではあるが、エントランスホールに入って結構すぐの所にある。コーナーを閉鎖的にするのではなく、コーナーと引き続いて小学生閲覧室に、本市ゆかりの科学者や歴史などに繋いでいけるようにレイアウトは考えたい。独立はしているけれども小学生閲覧室と上手く繋がっていくような、逆に言えば小学生閲覧室からシビックプライドの方に上手く誘導されるような、そういったレイアウトも考えてみたい。エントランスホールをやり変るので、出来てみるとこの場所は奥まった感じにならないと思っているが、そういうふうにならないように注意したい。

委員／子ども図書館自身が他にも学校の支援や家庭や地域の支援、関係関連機関との連携などもやっていかななくてはいけない場所だと思う。どちらかと言うと、ここに来る子どもや来られる人の人数というのは限られている。今出た意見プラス他の支援をして連携できるか、閲覧や扱いやすさ以外にもどれだけ市内全体の子どもの読書推進に対する頭脳プレイをやっているか。そこを担う方々などが使いやすいか、研修をしやすいか、話し合いしやすいか、色んな作業がしやすいか、そこを大事にしてもらいたい。図書館としての機能だけを追及するのではなく、特に今回の場合は子どもの読書推進をする所であるという事をレイアウトの中にしっかり入れていかなければならない。児童書を研究することも絶対必要で、やはり限られた中で様々な提案があると思うが、それ以外にも機能するところ、そこを盛り込んでもらいたい。

会長／例えばエントランスホール、そこに学校支援コーナーと言うか、そこでアドバイスをしてくれる、ここに行けばこういう本が欲しいと言えばそれが明示される、そういったブースがある等、市の読書活動を統括するような所があると良い。それから職員の方の配置のことでブース、スペースの真ん中辺りに職員の方がいらっしゃる図書館があるというお話も頂いた。気になったのは2階の閲覧室。2階に職員さんが全然いないと何かあつた時に困るし、難しいと思う。学習室としてガラス張りの個別のブースにするなら別だが、この3階にカウンターとまではいかないが職員がいる場所は必要ないか。

事務局／人員配置については未定だが、多目的室で常日頃イベントをしているわけではないので、先ほどから出ているように、いろんな人の会議だとか勉強の場とか、そうしたことをパーテーションで区切りながらここを上手に日頃から使っていくというのを考えている。そのことと、配置がどうなるかという事を考え合わせて、全く人がいないということがないようにしたい。

会長／それについてでも構わないし、他の事でも構わないが何か質問があるか。

委員／私はやはり学校にいるので、学校と図書館を繋ぐ事に一番期待をしている。こちらに尋ねたら答えられるというよりは、学校の方に発信して色んな読書セット

や教材セットなどを作ってそれを発信していくというか、今、中央図書館がやっていることを更に進めていけたらと思う。

会長／機能としてそういった所の強化を私も期待している。職員さんも増えることになると思うが。

話題は変わるが、幼児閲覧室の前庭あたりでも本が読めるようにしたいという発言があったが、何か企画があるか。

事務局／せっかくいい場所に庭があるので、子ども達が天気のいい日に庭に出て、日に当たりながら何か出来るような、そうした新しい空間を創りたい。いずれにしても整備は行う。

会長／この部分に関して何か今までの経験の中でこんな事が出来るのではないかとというような事があれば。

ちょっとしたステージや、青空のブックトークなど、できたら良いと思う。

幼児閲覧室にはベビーカーも中に入れられるか。

事務局／ベビーカーをどうするか考えてみる。エレベーターでそのまま上がることも大いにあるので、どのようにするのがベストか考えてみたい。

委員／図書館に駐輪場はあるが、駐車場は近隣に停めるのか。

事務局／駐車場についてはこれまで通り。

委員／ちなみに視聴覚室の所から近いところにパーキングがあるが、あれは図書館とは全く関係なくて別の駐車場か。

事務局／市の公園が運営している有料駐車場である。

委員／公園が運営しているにしては、けっこういい値段がする。

会長／こちらから意見を伺うのは少し失礼な気もするが、例えば特別支援の立場から、こういったことに配慮がいてのではないかとという事でご意見があればお願いしたい。

委員／エレベーターが付くということで、少し安心している所ではある。あとトイレの件について。図を見て多目的トイレは各階にあり、こういったハード面については少し安心した。

会長／多目的トイレについて説明して欲しい。

事務局／元々今の図書館にあるので、それを活用する。

会長／中のレイアウトについては次回だが、そちらのニーズをまたハード面に反映できたらという意見もあったので、今ある希望を出してほしい。

委員／小さい子どもとか車椅子の方でも見渡せるような高さなど、そんな所がこれから出てくると思う。

少し調べたが、電子書籍やパソコンの iPad、タブレット端末などこれからどのように考えているか、また質問したい。

会長／今の質問に何か答えられることがあるか。

事務局／子ども達に意見を聞いた中で、タブレットがあったら良いとか Wi-Fi 環境が欲しいとか、そうしたことも出ていた。それを何処までどういった形で活かすかというのがこれからの課題だと思っている。先ほど意見もあったが、あまり学習だけになっていけないし、とは言え子ども達からは、特に中高生の学習室への要望が大変高かったので、その辺を上手くバランスをとりながら考えたいと思っている。

会長／時間も迫ったので特に意見があればどうぞ。

委員／本当にこれからという所もあるので、今日何処までというのものもある。今まで他

の新しい図書館に、そのまま本を返せるような新しいやり方を導入された所もあった。今回はそこまではやはり難しいか。

チップがついていて、返すと全部それが連動で誰が返したことが分かる様な形というのも新しい所であったと思うが。

事務局／システムの関係があるので、可能な限りとしか答えられなくて残念だが、できるだけ使い勝手のいいやり方にしたいとは思っている。

会長／色々な意見を反映できるかどうかというのもまたご検討いただきたい。

議題の2の方に進める。

議題（2）平成27年度の各施策の指標の検証について

事務局／ 議題2「平成27年度各施策の指標の検証について」、これは前回一度出している。但し書きに記載していたが、統計上の関係で平成26年度と平成27年度が混じっていた。今回全部数値が出揃ったので、27年度の数字で改めて示したので参考までにご覧頂きたい。また、このプランの周知として、リーフレットを配布した。公立私立を問わず高校生以下のいる全家庭に対して配布を終えた所である。また学校関係のほかにも市民センターや図書館など生涯学習施設また文学館などの文化施設等にも配布した。ちなみにリーフレットの配布箇所としては約800か所、部数としては15万部を超えている。ようやく一応配り終わったという所だが前回委員の皆さま方から沢山意見をいただいたように、配った後の説明が大事とういことで、今後出前講演などを通して幅広く積極的にPRを行っていききたい。

大変恐縮であるが委員の皆さまもそれぞれのお立場でそれぞれの集まり等で広報に努めて頂くと大変ありがたい。

会長／私どもも協力してリーフレットの配布、周知や理解をPRしていききたい。これについて何か質問があれば、ないようであればこれは終わりして議題3に進む。議題3は「その他」であるが、子ども学習会議について説明をお願いしたい。

議題（3）その他について

事務局／配布資料3を説明する。子ども読書会議という事業を今年度新規で始めることになった。新・子ども読書プランの冊子の28ページにある。「活動方針4子どもの主体的な読書活動の推進」、「施策7主体的に積極的に読書に係る子ども達の育成支援」の為に、新しく子ども読書会議を開催する。本年度は、従来からやっている子ども司書養成講座のプログラムの一部として開催する。初年度はこういう形でやっていく。内容と日時であるが、「咲かせようドリームライブラリー」と題し、子ども司書養成講座の受講者70名の小学生・中学生に、子ども図書館についての希望やアイデアを語ってもらう予定である。日時が8月20日の土曜日14時30分から16時、場所がこちらの第3会議室である。次の2枚目のカリキュラムにあるが、子ども達に「咲かせようドリームライブラリー、みんなで考えよう子ども図書館」という内容で、どんなことがしたいか、それからどんな本や資料を置いて欲しいか、スタッフにして欲しいことは何か、それから建物や部屋はどんなものがいいのか等、自由に話し合ってもらいたいと思っている。またここですごく突飛なアイデアが出るかもしれないが、子どもらしい良いアイデアが出ることを期待しているので、可能なものがあれば今後の検討の中に生かしていききたいと思っている。委員の皆さんは自由に観覧していただけるように考え

ているので、もしご都合がついて、聴いてみたい方は、当日連絡は必要ないのでお越しいただきたい。

会長／何か魅力的な企画やアイデアがでると思うが、希望がある方はぜひという事なので、突然お邪魔する方がいらっしゃるかもしれない。それでは議題3は以上でよろしいか。では、村岡委員に絵本カーニバルの紹介をお願いしたい。

委員／今年も旅する絵本カーニバル in 黒崎を開催する。チラシを配付しているのでご覧になって頂きたい。日時は8月5日から7日、10時から4時まで。会場が黒崎ひびしんホールの中ホール。イベントは日替わりで裏のほうにプログラムを載せている。市内の八幡東・西・小倉北の小学校と八幡西の幼稚園に2万枚のチラシを配布している。みなさんのお越しをお待ちしている。

会長／それではその他で全般に渡りまして、質問やご意見などあれば。ではないようなのでこれで協議を終わる。

事務局／次回の開催については10月の開催を予定している。委員の皆さまには日程を調整の上、会議の開催のご案内を差し上げたい。

以上で、「平成28年度第2回北九州市子ども読書活動推進会議」を終わる。後日、本日の議事録をまとめ、市のホームページで公開をしたい。